

NEWSLETTER 23

GLOBAL MAPPING

持続可能な開発に関する世界サミットに向けた行動

秋山 實

地球地図国際運営委員会事務局長

地球地図国際運営委員会(ISCGM)の第8回会合の決議第8項には、「ISCGMは、来る2002年9月に南アフリカ、ヨハネスブルグで開催されるリオ+10(持続可能な開発に関する世界サミット)の重要性を認識し、委員や国家地図作成機関(NMO)が、リオ+10に責任を持つ自国の政府機関に対し、地球地図が本会議の目的にとって重要であることを広く説明するよう奨励する」と述べられている。

地球地図の取り組みは、地図分野のUNCED(リオ・サミット)のアジェンダ21への対応として提案された。このため、地球地図が、WSSDで採択される文書のなかで、過去10年間で成し遂げた行動の成功例として取り上げられることが求められている。

WSSDの準備作業は、国別、地域別の準備作業とCSD10準備委員会から成り立っている。

地域の準備作業は、国別の報告書と国の状況を考慮し、地域における進捗の評価を行うことを目的としている。地域の準備作業は、アフリカ、アジア・太平洋、ヨーロッパ及び北米、ラテン・アメリカとカリブ海諸国、西アジアにおいてそれぞれ進行中である。

ISCGM事務局は、(MS Power PointとMSWordファイルで)Rio+10に向けた説明資料を用意した。それらの資料はISCGMのホームページで入手されたい。各国の国家地図作成機関は、自国政府を通し準備作業を行うよう強く奨励される。

ISCGM WSSDのページを下記に示す。
<<http://www.iscgm.org/wssd.html>>

国土地理院の宇根寛氏が2001年7月28日、中国、北京で開催された北東アジア区域準備委員会に出席した。同じホームページに宇根氏の報告も掲載されている。

第2回 UNCODI 会議における ISCGM の代表報告

ハガイ・ニャポラ
ケニア測量局局長

国連アフリカ経済委員会開発情報委員会(UNCODI)地理情報に関する小委員会の第2回会議は、2001年9月4日～7日まで、エチオピア、アディスアベバの国連アフリカ経済委員会本部で開催された。

以下の加盟国の代表が本会議に参加した。アルジェリア、アンゴラ、ベナン、ボツワナ、ブルキナファソ、赤道ギニア、サントメ、プリンシペ、ブルンディ、象牙海岸、コンゴ民主共和国、ジブティ、エチオピア、ケニア、レソト、マリ、マダガスカル、モザンビーク、ナミビア、ナイジェリア、ルワンダ、セネガル、スワジランド。

また、国連、米国、ヨーロッパ及び測量・地図作成関連の国際機関からのオブザーバーの参加もあった。

コロンビア、カルタヘナで開催された第8回ISCGM会合において、ISCGMのアフリカ地区の

委員がCODI会議でISCGMを代表するよう委任され、私がケニアとISCGMを代表しCODI会議に参加した。

私は、リオ・サミットで採択されたとおり、アジェンダ21の目的を推進するため、アフリカ諸国は、地球地図プロジェクトのデータ整備に参加の必要があることを述べた。

私は、地球地図整備には3通りのレベルの参加があることを説明し、ISCGM事務局とそのホームページを含め、詳細の情報の入手場所について述べた。また、ESRIのデンジャモンド氏の故エステス教授を記念する助成金の詳細を紹介した。私の発表は代表団から歓迎され、その結果、地理情報に関する小委員会のCODI-2決議の1つに、アフリカ諸国が3通りのいずれかのレベルで、完全に地球地図プロジェクトに参加するよう促す要請が盛り込まれた。

ワーキング・グループ1が地球地図フェーズ2を検討

ジョン・ケルメリス博士
米国地質調査所主席研究官

ワーキング・グループ1(戦略計画策定)の特別会合が2001年8月8日、北京の国際地図学会議において行われた。5ヶ国の代表がフェーズ2の計画策定の検討に参加した。地理空間情報の地球規模での入手の可能性に関して起こった幾つかの特筆すべき変化から討議が始まった。例えば、地理ネット上でオンラインでV-map level-0やV-map level-1の一部のデータの入手が可能であること、小さな国では100万分の1の縮尺は有用でないこと、世界のランドサット・モザイク(1990年頃)が国連環境計画GRID用に利用可能になったこと、そのモザイクから作成された全球の土地被覆データを公開するための交渉が進行中であること、同様のモザイク(それぞれ1980年と2000年頃)の整備と公開が検討されていること、Shuttle Radar Topographic Missionデータの処理と今後の公開が計画されていること、Global GISのベータテストが完了に向かっており、2001年~2002年の間に地域ベースで公開が予定されることである。このような事実や前回のワーキング・グループ1の参考資料とISCGMでの議論を考慮し、特別グループは以下の勧告を作成した。

ベクター・データ

- フェーズ2には、フェーズ2計画が承認された時を開始とする5年の期間が必要である。
- 地球地図(GM)の最小の縮尺は100万分の1

とし、より大きな縮尺のデータの寄与は、それがGMフェーズ2の仕様に見合う場合には受け入れられる。

- 新たなレーヤは導入すべきでない。
- フェーズ2の仕様は、自由なフォーマットでの仕様の整備を反映するために変更される。
- 2ヶ国以上のデータ・ファイルの結合は、関係国間での合意がなされた場合に受け入れられる(これは「継ぎ目のない」データと「国ごとの」データの妥協案である)。

ラスター・データ

- GMの参加国は、データの現地調査と検証を行うよう奨励される。
- 本プロジェクトの主なデータ源は衛星画像であり、すなわち、最も利用可能なデータである。
- 適切な解像度と、ラスターデータのGMへの最も良い組み入れ方法を決定するために、新しいワーキング・グループを設立すべきである。このワーキング・グループはまた、より大きな縮尺のベクター・データをGMに組み入れるための選択肢を検討し、Global GISの扱いについても決定する。

これらの勧告は検討のためISCGMに託される。

第2回デジタル・アース・シンポジウム報告

カレン・D・クライン
地球地図国際運営委員会事務局次長
カリフォルニア大学サンタバーバラ校

第2回デジタル・アース・シンポジウムは、2001年6月24日~28日までカナダ、ニューブランズウィック州フレデリクトンで開催された。本シンポジウムの主なハイライトは、オラクル社のジャック・ペリッチによる基調講演、NASAのジェフ・ドウ・ラ・ボージャーディエによるデジタル・アース技術のライブのデモ、ドイツ、ノルトライン-ヴェストファーレン州測量地図局のクラウス・バーウィンスキーによる基調講演、ナ

ショナル・ジオグラフィック・マップスのビル・ストゥールによる基調発表、カナダのプライバシー審議官のジョージ・ラドワンスキーによる基調講演とともに国連環境計画のミック・ウィルソンによる閉会式を兼ねた昼食会における発表であった。ミック・ウィルソンの発表では、現在整備が進むデータや技術の利用をもくろむ多くの機関が直面する主な問題点が要約された。

地球地図国際運営委員会を代表して2つの発表

がおこなわれた。

- 宇根寛、梶川昌三、秋山實、カレン・D・クライン、「地球地図プロジェクトの現状」(カレン・D・クライン発表)
- カレン・D・クライン、「地球地図プロジェクトの概要：調査の必要性に焦点をあてる」
会議管理者のウェイン・ウォルシュによると世界中の30ヶ国からほぼ700名の参加者があった。彼はこの「シンポジウムは、デジタル・アースの理念が単なる孤立した関心事ではなく、グローバルなものであることを明らかに示した」と述べた。

本シンポジウムの会議録は作成されなかったが、会議の主催者は、ワークショップやセッション、ポスターセッションで発表された資料を現在収集中であり、本会議のホームページで入手できるよう計画している。

第3回デジタル・アース・シンポジウムの計画は暫定的に検討されているが、会議期間中には詳細の合意はなかった。

本会議の詳細は、会議録が入手可能となる時期を含めて以下のホームページに掲載される。

www.digitalearth.ca

地球地図オーストラリアの公開

リネット・セボ

AUSLIG 地図・海岸境界プログラム研究開発課

地球地図オーストラリアが2001年6月28日にISCGMのホームページで公開された。オーストラリアは、AUSLIGを通じてISCGMの設立からの委員であり、強力な支持者である。AUSLIG局長のピーター・ホランドは、現在、暫定委員長の任にあり、副委員長を務めISCGMでオーストラリアを代表する。

オーストラリアの地球地図への貢献には、(ことにアラン・スウィフトの努力による)地球地図仕様の整備への大きな関与や1998年のキャンベラにおける第5回ISCGM会合の主催、オーストラリア大陸内外の国土の100万分の1のベクター・データ及びラスター・データの作成等がある。

この課題に着手したことは、地理的範囲や膨大なデータ量の処理と言う点で意義深いものであった。オーストラリア大陸内外の国土は、ほぼ東経73度～東経168度、南緯-9度～南緯-55度の範囲に広がり、これを地球地図で表現すると、5x5度～5x8度の範囲の81の地球地図タイルから構成されることとなる。バージョン1.0の最終のベクター・データは、解凍された状態で80MBであり、ラスター・データは、解凍された状態で151MBである。

AUSLIGは、Vector Map Level 0のデータがAUSLIGの他のデータと一貫性が無いことに気づき、540に分割したタイルから構成されるAUSLIGのGEODATA TOPO-250Kシリーズ1データを用い、100万分の1のベクター・データ

を整備した。フィーチャーを選択する際の手引きとして100万分の1のWorld Aeronautical Charts等を用い、原資料に基づき、自動処理でGEODATA 1:250Kのタイルに間引きを行った。自動処理のあと手作業で編集を行い、各テーマについて全てのタイルを加え、ESRI ArcInfoカバレッジ・フォーマットに収納する単一のデータセットを作成した。

土地被覆、土地利用、植生のラスター・データは、Global Land Cover Characterizationデータセットから作成された地球地図バージョン0データをもとに、他の適切な参照資料と比較し作成した。オーストラリアのGTOPOの標高データは、USGSから直接入手しAUSLIGの9秒メッシュのDEMと比較した。ラスター・タイルはそれぞれERDASイメージ8.4を用い編集し、さらにGSIに提供するためにBILファイルで保存した。

オーストラリアの地球地図データはAUSLIGのホームページでオンラインでDIGESTとESRIのShapefileフォーマットで入手可能である。これらのデータは更新される予定である。データは許可のもとに無料で提供され、営利目的と非営利目的の両方に制限無しに利用してよい。

オーストラリアの地球地図への関与についての詳細は、以下のAUSLIGのホームページに記載されている。

<http://www.auslig.gov.au/mapping/globalm/global.htm>

地球地図の参加状況

地球地図の参加状況	2001年9月25日現在
地球地図の参加国・地域数	86ヶ国・地域
地球地図への参加を検討している国・地域数	33ヶ国・地域
地球地図への最近の参加国	
セネガル整備交通省測量地図局	8月1日参加
チリ国地理院	8月3日参加

地球地図データの公開

公開されたデータ

オーストラリア 6月28日、バングラデシュ 7月22日

地球地図及び関連の会合予定

以下は地球地図及び関連の会合の予定です。関連の会合についての情報を歓迎します。

2001年

- 10月15日～18日、ケニア、ナイロビ
WSSD アフリカ地域準備委員会
- 10月23日～24日、ブラジル、リオデジャネイロ
WSSD ラテンアメリカ・カリブ海地域準備委員会
- 10月24日～25日、エジプト、カイロ
WSSD 西アジア地域準備委員会
- 10月25日～26日、オーストラリア、アデレード
第13回 ISO/TC211 本会議
- 11月5日～9日、ケニア、ナイロビ
第5回 AfricaGIS 会議
- 11月6日～7日、日本、京都
第15回 CEOS 本会議
- 11月8日～9日、ブルガリア、ソフィア
FIG/ICA シンポジウム“測地、写真測量、衛星技術 - 整備と統合利用”
- 11月27日～29日、カンボディア、プノンペン
WSSD アジア太平洋地域準備委員会

2002年

- 1月28日～2月8日、米国、ニューヨーク
CSD10 第2回準備委員会
- 2月12日～15日、日本、東京
第13回 CEOS/WGISS
- 3月、米国、ニューヨーク
CSD10 第3回準備委員会
- 4月19日～26日、米国、ワシントン
第XII回 FIG 会議及び第XV回総会
- 5月23日～24日、タイ、バンコック
第14回 ISO/TC211 本会議
- 5月、インドネシア
CSD10 第4回準備委員会
- 8月26日～9月6日、ドイツ、ベルリン
第8回国連地名標準化会議
- 9月2日～11日、南アフリカ、ヨハネスブルグ
持続可能な開発世界サミット
- 9月、ハンガリー、ブダペスト
第6回 GSDI 会議
- 9月20日、ハンガリー、ブダペスト
第9回 ISCGM 会合

編集、発行：国土地理院

地球地図国際運営委員会事務局

連絡先：〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番

Tel: 0298-64-6910 Fax: 0298-64-6923

E-mail: sec@iscgm.org

<http://www.iscgm.org/>